

【件名】

令和 6 年度中野区総合防災訓練の実施結果について

【要旨】

防災危機管理課では、令和 6 年度中野区総合防災訓練を実施した。

今回、以下のとおり実施結果について報告する。

1 実施日時

- (1) 桃園地域 令和 6 年 11 月 10 日（日）9 時～12 時まで
- (2) 江古田地域 令和 6 年 11 月 24 日（日）9 時～12 時まで

2 実施地域等

- (1) 桃園地域 区立桃花小学校
- (2) 江古田地域 区立第七中学校

3 訓練参加者数

- (1) 桃園地域 658 名（各防災会及び一般参加者 290 名・関係機関等 368 名）
- (2) 江古田地域 645 名（各防災会及び一般参加者 318 名・関係機関等 327 名）

4 訓練の内容

【桃園地域】

初期対応訓練において要配慮者の避難訓練を取り入れるとともに、能登半島地震の発生を受け、避難所各部の動きをイメージできる訓練を取り入れた。また、外国人防災リーダーによる初期消火指導を実施した。

(1) 初期対応訓練

桃園地域の各防災活動拠点の一部（団桃園公園、宮桃防災広場、中央公園、上町防災広場、谷戸運動公園）において、①初期消火（水消火器、スタンドパイプ）、②安否確認、③車いすを活用した要配慮者の避難を実施

(2) 公助連携訓練

①施設点検・応急危険度判定、②応急給水・緊急通行車両手続き、③道路啓開作業

(3) 避難所各部訓練

①庶務部（布間仕切り設置、避難者数集計（受付））、②情報連絡部（無線通信）、③物資調達部（物資受入・給水）、④救護・衛生部（仮設トイレ設置等）、⑤避難支援部（避難者数の確認）

(4) 参加者体験訓練

①消火器的あて、②視覚障害者誘導・車いす体験、③起震車体験、④煙体験、⑤倒木のこぎり体験、⑥AED 体験、⑦消火 AR 体験

【江古田地域】

午前 9 時発災の想定のもと、各防災会員は各防災活動拠点に集合し、会場である中野区立第七中学校まで避難訓練を行った。同時に一部の活動拠点にて要配慮者の避難訓練も実施した。また、避難所開設キットを活用した避難者の受付訓練を実施するとともに、医療救護所開設・運営訓練、エアーテントを活用したペット同行・同伴避難訓練、第七中学校生徒 12 名からなる防災青年リーダーによる訓練指導を実施した。

(1) 医療救護所開設・運営訓練

トリアージのデモンストレーションと解説を行い、防災会員等が傷病者役・搬送者役となり、五師会による 37 症例のトリアージ訓練を実施した。また、現場救護所にはエアーテントを活用した。

(2) エアーテントを活用したペット同行同伴避難訓練及び獣医師会による講話

エアーテントを活用しペットの居住環境を確認するとともに、ペット同行・同伴避難訓練参加者に対するアンケートを実施。さらに避難所運営者向けの防災講話をはじめ、一般参加者向けの災害時における飼い主の心得に関する講話を実施した。

(3) 参加者体験訓練

①消火器的あて、②救出救助体験、③視覚障害者誘導・車いす体験、④避難所資機材操作体験、⑤起震車体験、⑥煙体験、⑦AED 体験、⑧まちかど防災訓練車・スタンドパイプによる消火

5 訓練参加機関及び参加者数

別紙 1 及び 2 のとおり

6 アンケート結果

別紙 3 のとおり

7 参加者及び医師会・獣医師会からの意見

別紙 4 のとおり

8 今後の方針

- (1) 総合防災訓練の在り方については、時勢を捉えたメニューを選択するとともに、多くの区民が参加できるよう検討していく。
- (2) ペット同行・同伴避難については、今後も継続して検証していくとともに、エアーテントの活用に限らず、他の先進自治体の動向を注視しながら検討を進めていく。

訓練参加機関	参加人数
防災会(上町町会地域防災会、仲町町会防災会、宮三町会防災会、桃園町会防災会、宮桃防災会、橋場防災会、南口町会防災会、囲町自治会防災会)以上8防災会 及び一般参加者	290
中野区	89
中野警察署	11
中野消防署	6
中野消防団	25
東京水道グループ	8
東京都下水道局 西部第一下水道事務所 中野出張所	7
陸上自衛隊第一師団第一普通科連隊	5
株式会社 NTT 東日本 南関東 東京北支店	20
東京電力パワーグリッド株式会社 荻窪支店	3
東京ガス株式会社	3
中野区医師会	20
中野区歯科医師会	5
中野区薬剤師会	9
東京都柔道整復師会中野支部	3
東京都助産師会新宿中野杉並地区分会	5
日本救助犬協会	3
中野建設まちづくり協議会	30
中野区造園緑化業協会	11
中野区電設防災協力会	10
東京都葛飾福祉工場	2
一般社団法人東京都トラック協会	3
中野区社会福祉協議会	6
中野区福祉団体連合会	17
中野区介護サービス事業所連絡会訪問看護部会	5
中野区介護サービス事業所連絡会介護支援専門員部会	6
中野区国際交流協会	6
東京土建一般労働組合 中野支部	5
中野区民生児童委員協議会 桃園地区	17
日本赤十字奉仕団 桃園分団	8
トヨタモビリティ東京株式会社	2
来賓・議会関係	5
中野区防災リーダー	10
中野区外国人防災リーダー	3
小 計	368
総 合 計	658

【江古田地域】

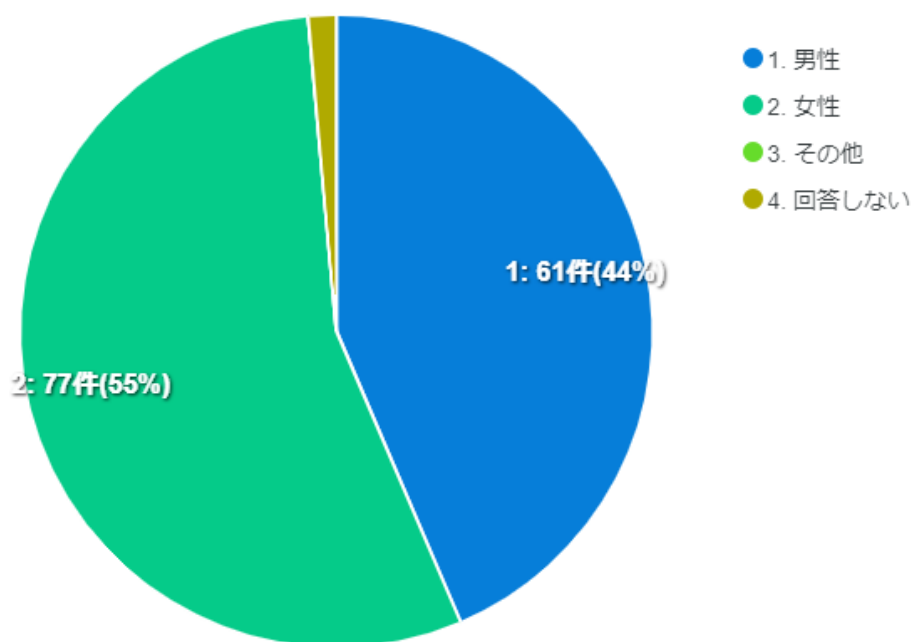
訓練参加機関	参加人数
防災会(松が丘片山町会防災会、江古田一丁目地域防災会、江原町防災会、旭公民館防災会、パシフィック中野防災会、江古田住宅自治会地域防災会)以上6防災会及び一般参加者	318
中野区	118
野方警察署	6
野方消防署	16
野方消防団	7
東京水道グループ	8
株式会社 NTT 東日本 南関東 東京北支店	15
東京電力パワーグリッド株式会社 荻窪支店	4
東京ガス株式会社	3
中野区医師会	30
中野区歯科医師会	9
中野区薬剤師会	7
東京都柔道整復師会中野支部	11
東京都助産師会新宿中野杉並地区分会	5
中野区福祉団体連合会	10
東京都葛飾福祉工場	1
中野区介護サービス事業所連絡会介護支援専門員部会	9
中野区介護サービス事業所連絡会訪問看護部会	11
中野区赤十字奉仕団 江古田分団	3
中野区社会福祉協議会	5
中野区民生児童委員協議会 江古田地区	5
東京都獣医師会中野支部	7
陸上自衛隊第一師団第一普通科連隊	5
新渡戸記念中野総合病院	6
来賓・議会関係	6
中野区防災リーダー	6
中野区防災青年リーダー	11
中野区外国人防災リーダー	3
小 計	327
総 合 計	645

◆令和 6 年度 中野区総合防災訓練（江古田地域）◆ アンケート結果まとめ

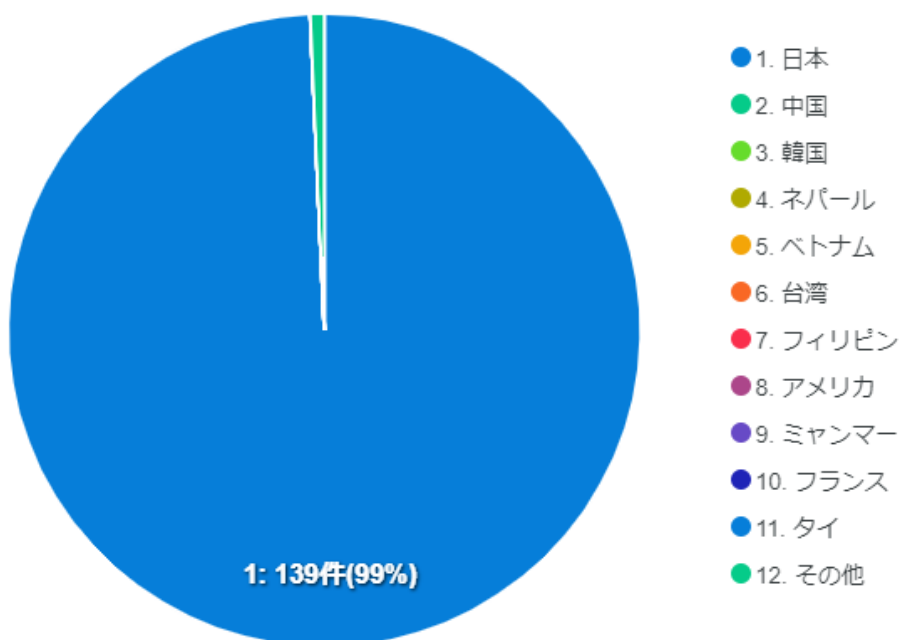
総回答数：140

※ペットを飼っている方:34(Q16.17) ペットを飼っていない方:106(Q14.15)

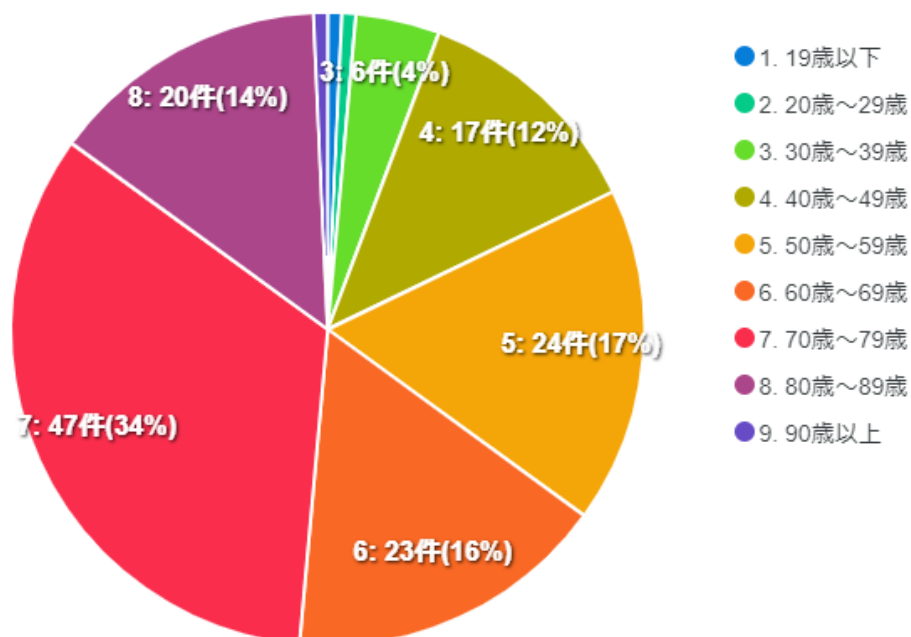
Q1 あなたの性別を教えてください。



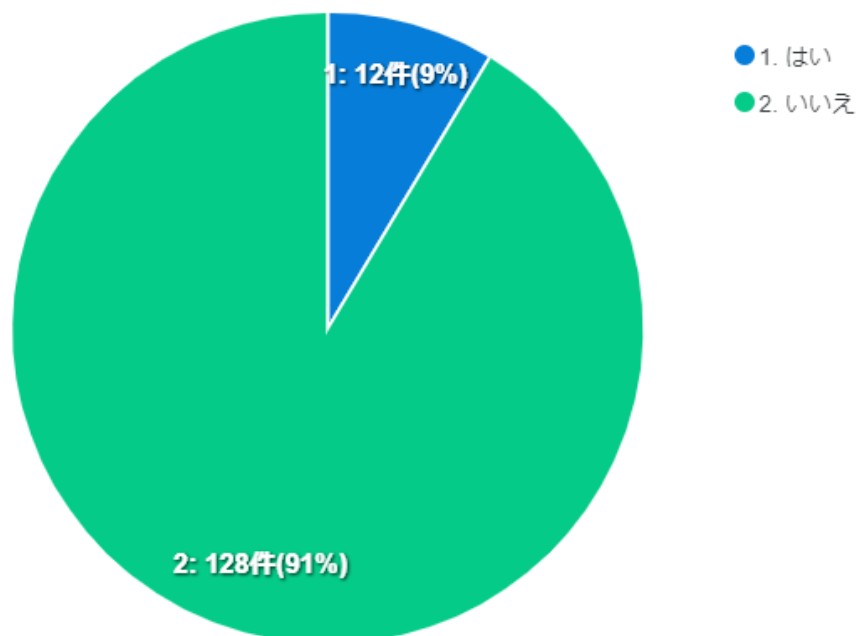
Q2 あなたの国籍を教えてください。



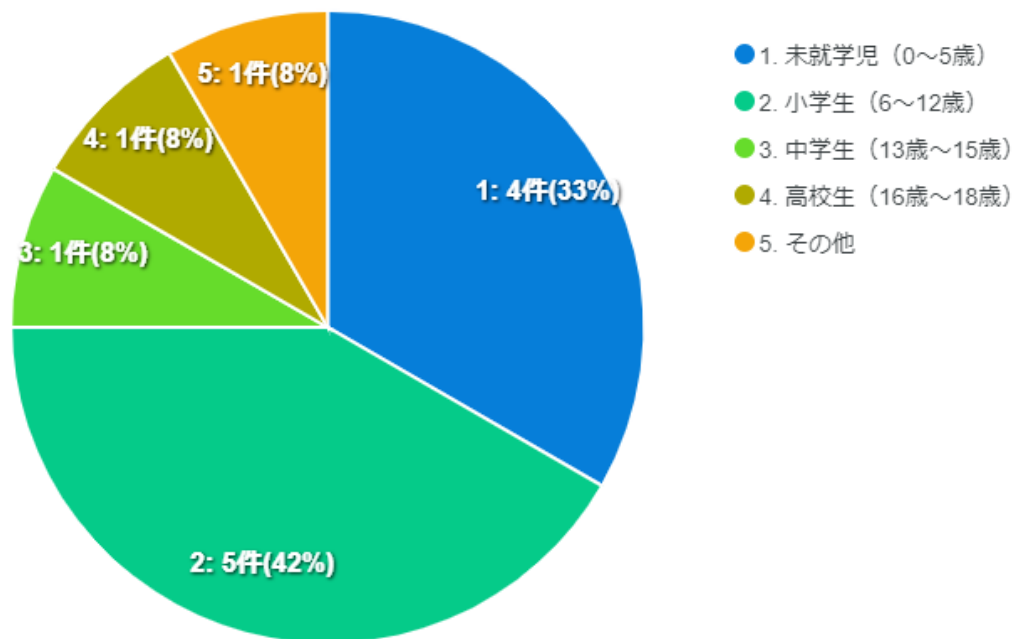
Q3 あなたの年齢を教えてください。



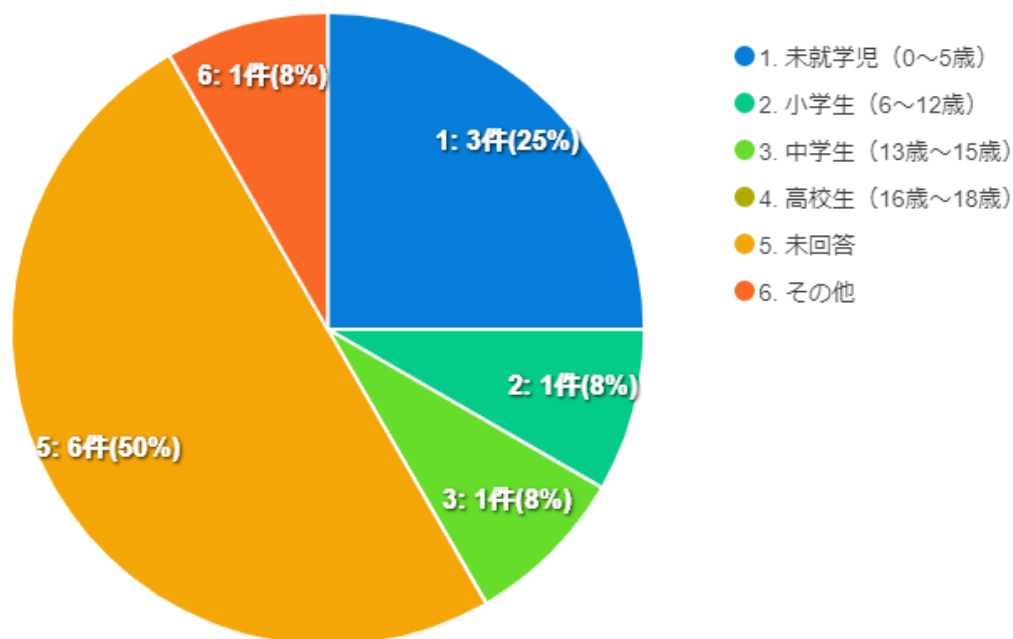
Q4 子ども同伴での参加ですか？



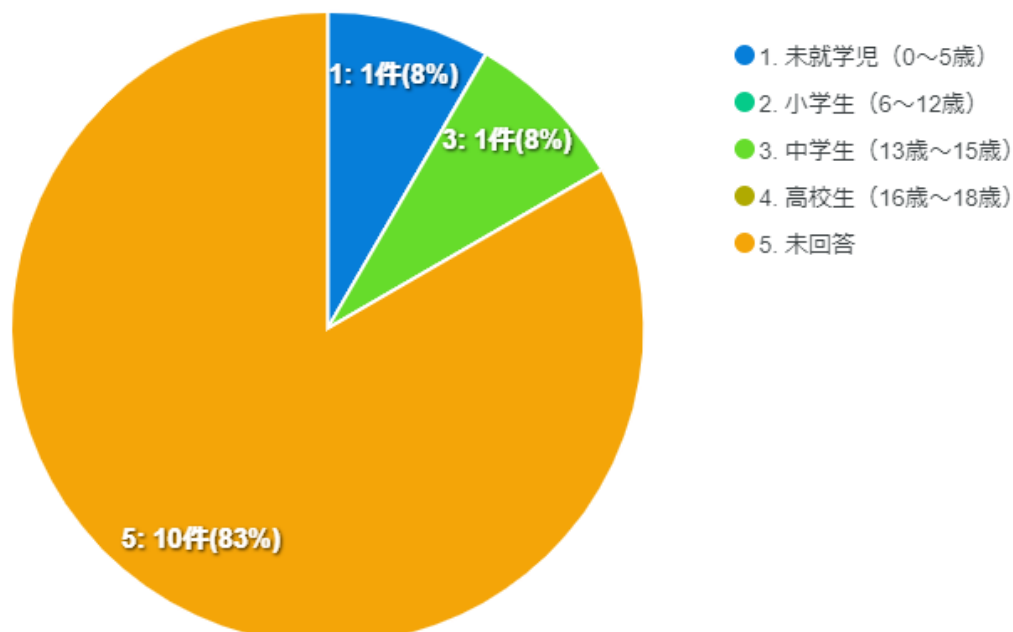
Q5 (Q4.はい と答えた方のみ) 子どもの年齢を教えてください。【1人目】



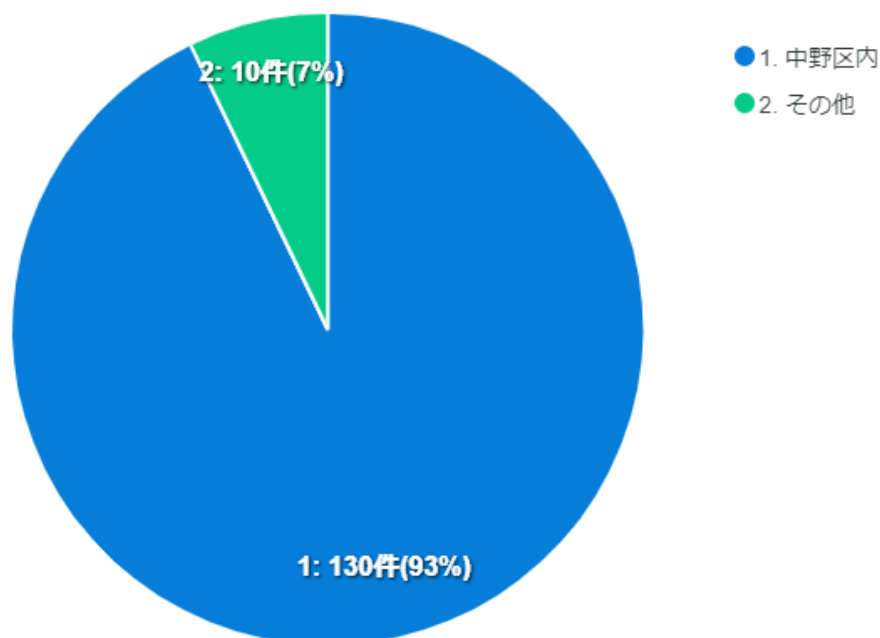
Q6 (Q4.はいと答えた方のみ) 子どもの年齢を教えてください。【2人目】



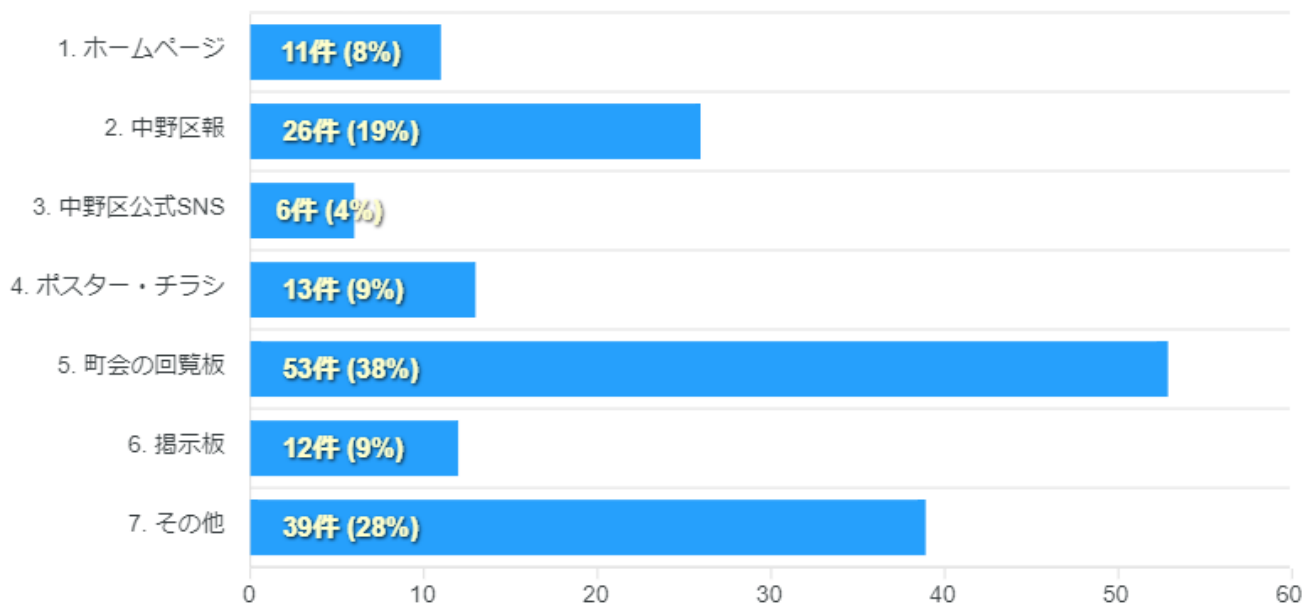
Q7 (Q4.はいと答えた方のみ) 子どもの年齢を教えてください。【3人目】



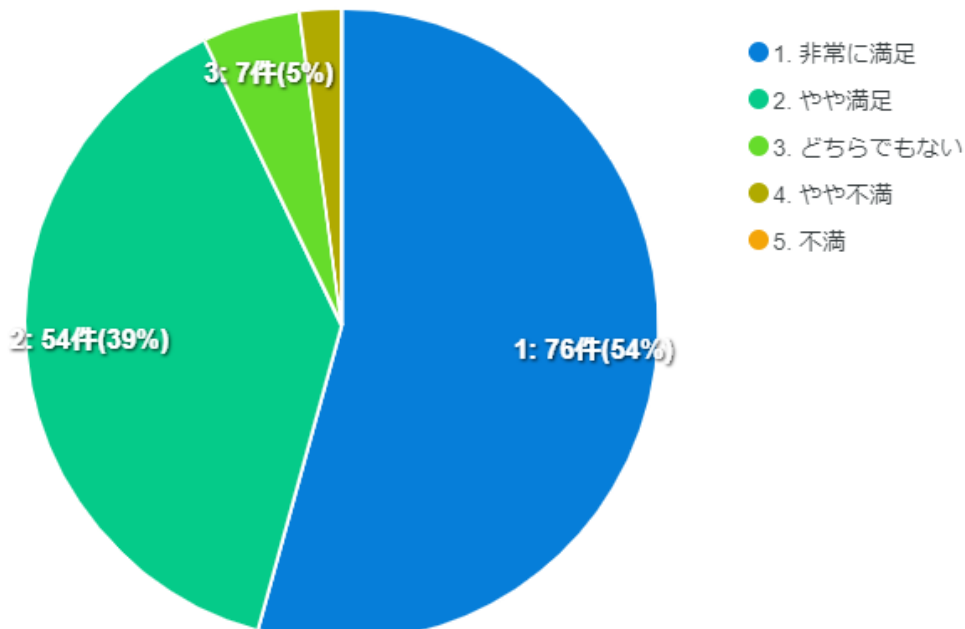
Q8 お住まいの地域を教えてください。



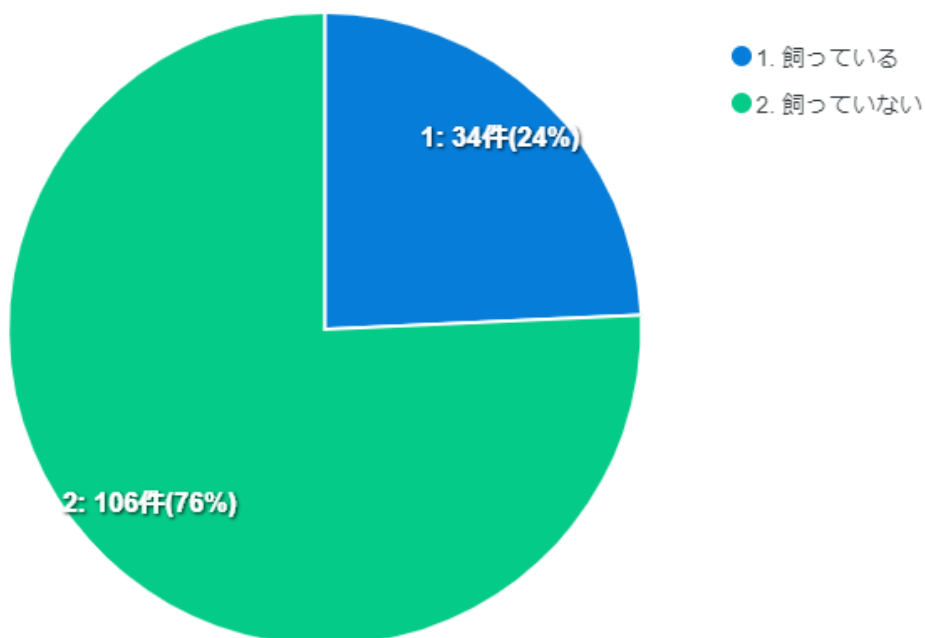
Q9 「中野区総合防災訓練」を知ったきっかけ教えてください。（複数回答可）



Q10 「中野区総合防災訓練」に参加した満足度をおしえてください。

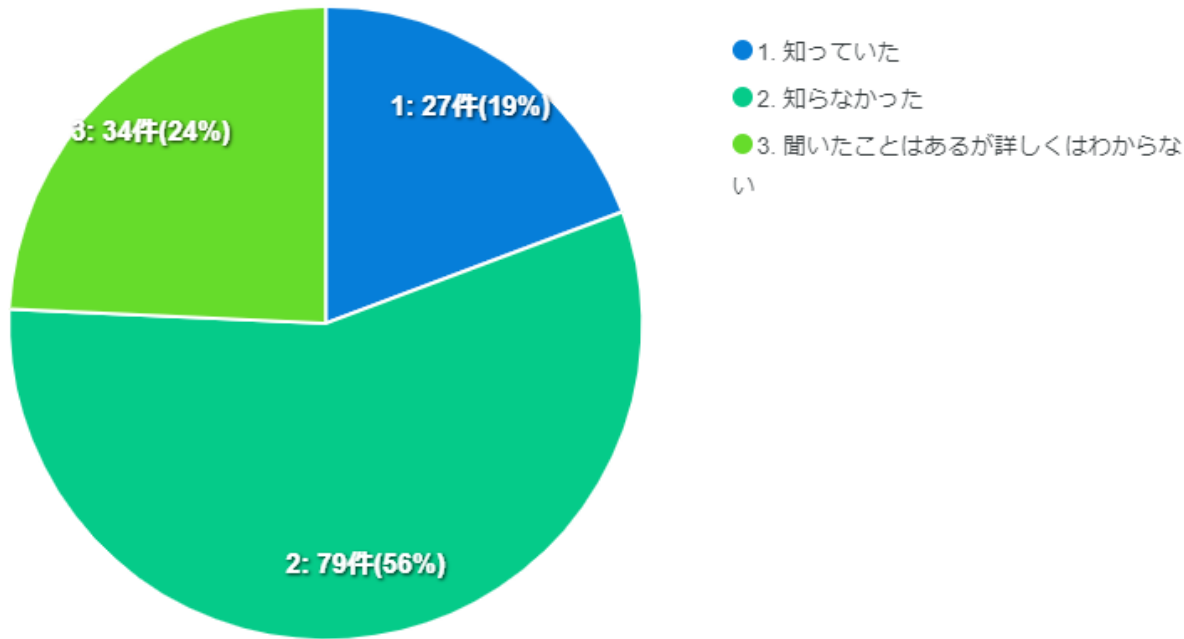


Q11 ご自宅でペット（犬・猫・ことり等の小動物）を飼育されていますか？



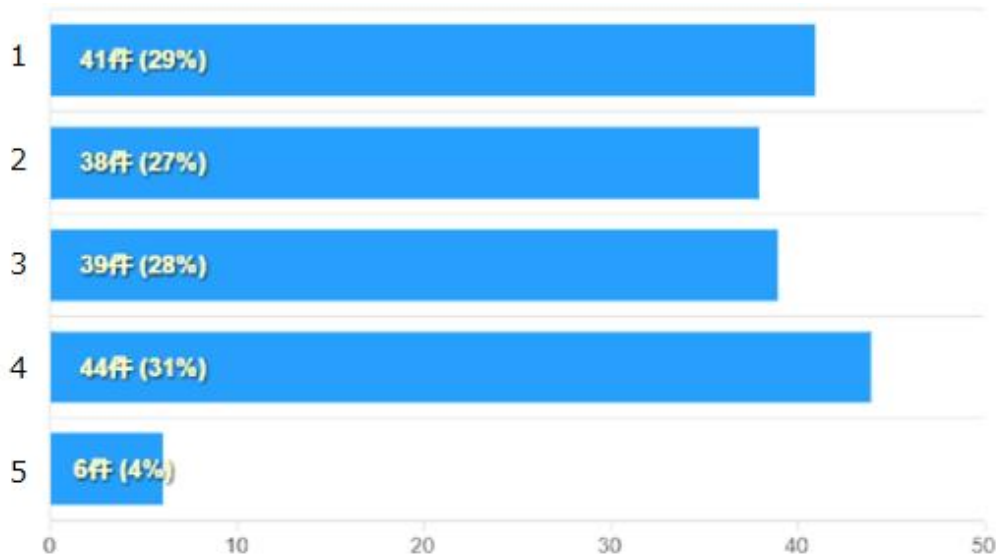
Q12

中野区の避難所では、犬・猫・ことり等の小動物に限り、屋外でのペットの避難を可能としております。ただし、飼育管理は飼い主（グループ）が行い、ペットの飼育に必要なものについても飼い主が用意することとしております。上記の体制について、知っていましたか？



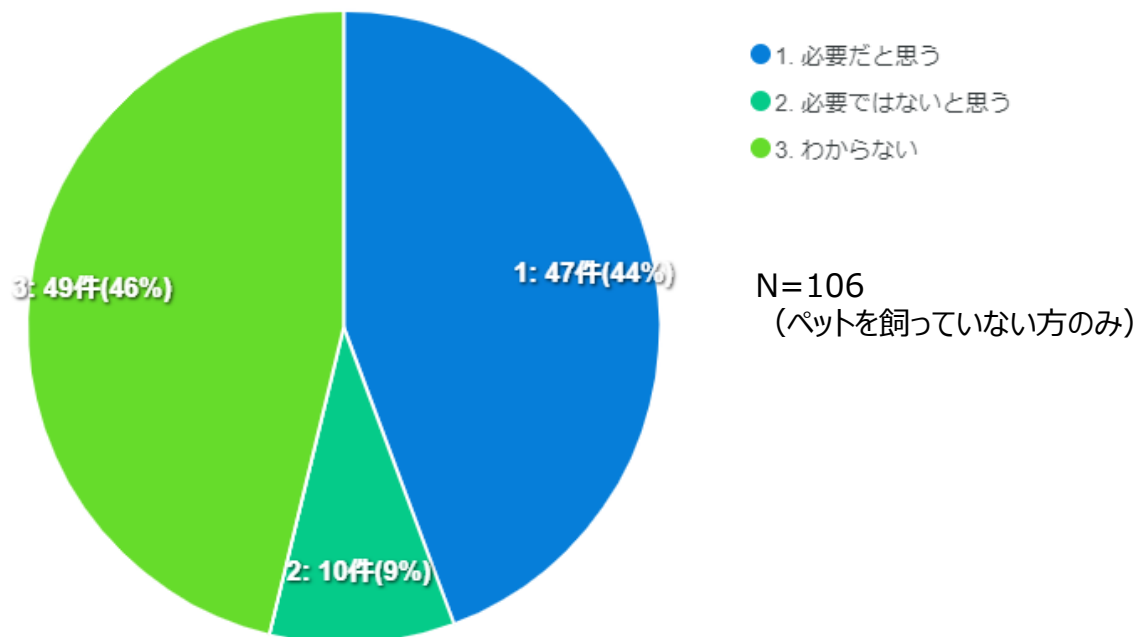
Q13

今回のエアーテントを使用した飼い主とペットとの同室避難（検証）等についての感想をお聞かせください。（複数回答可）【※ペットを飼われていない方も回答してください。】

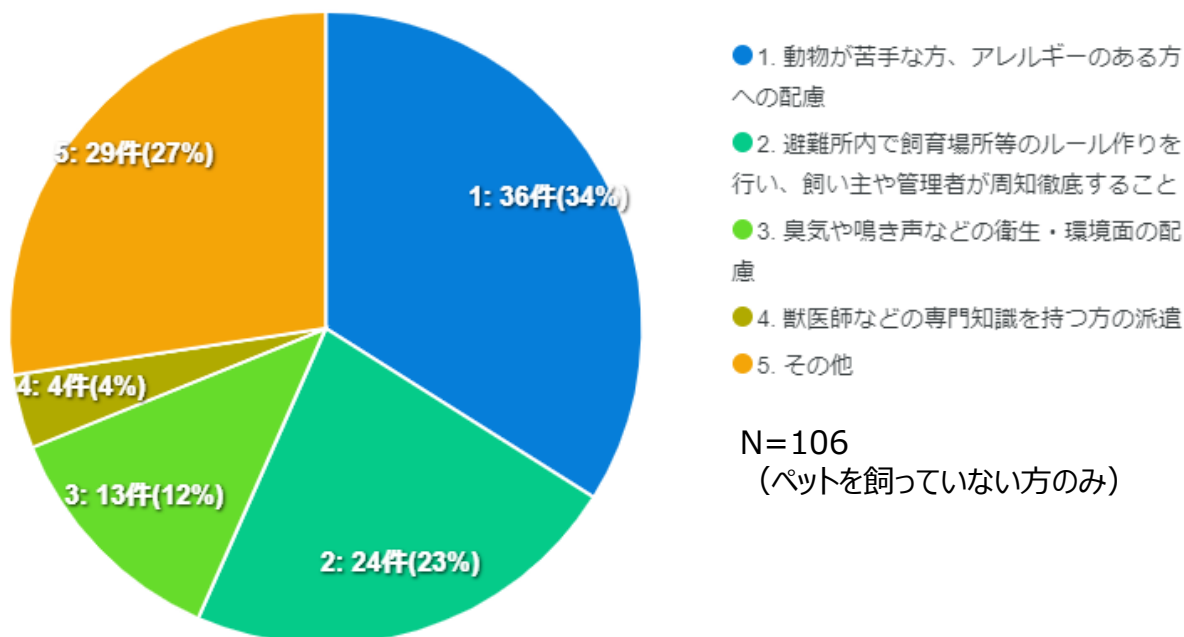


- 1 体育館（避難所）と離れているため、ペットの匂いやアレルギー、鳴き声の心配はない
- 2 夏や冬など季節によりエアーテント内での環境が心配
- 3 現在の屋外での避難よりエアーテント内に避難できることが望ましい
- 4 未回答
- 5 その他

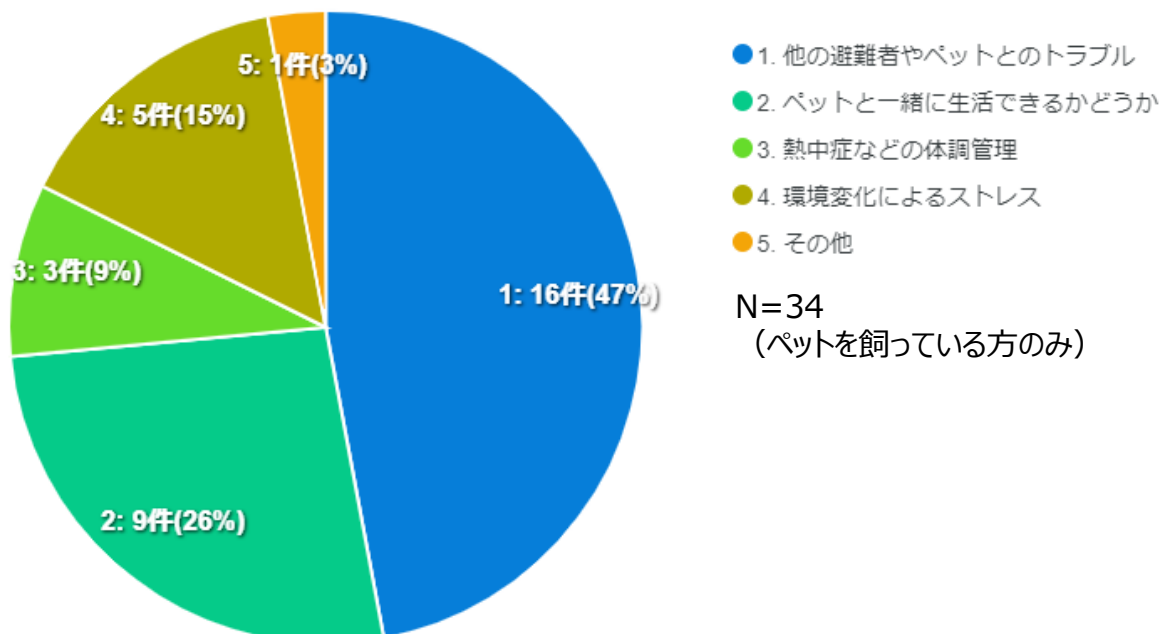
Q14 災害時、避難所内でペットと飼い主が同じ空間（室内）で生活できるような環境は必要だと思いますか？



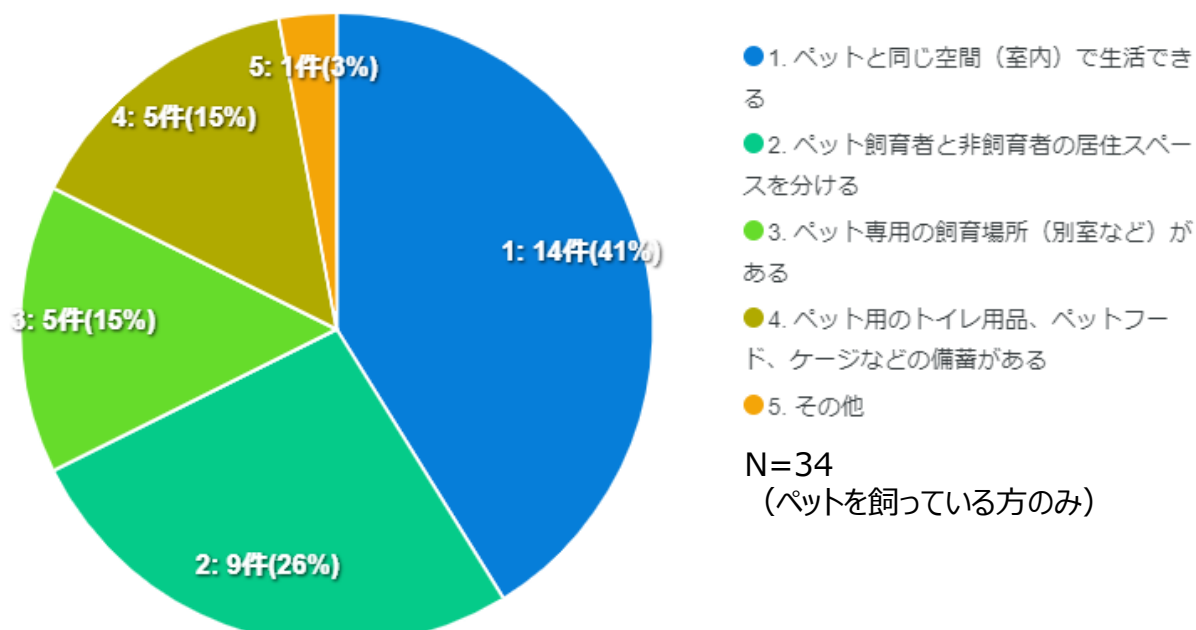
Q15 避難所内でペットを飼育している人とそうでない人が共同生活をするためには何が最も必要だと思いますか？



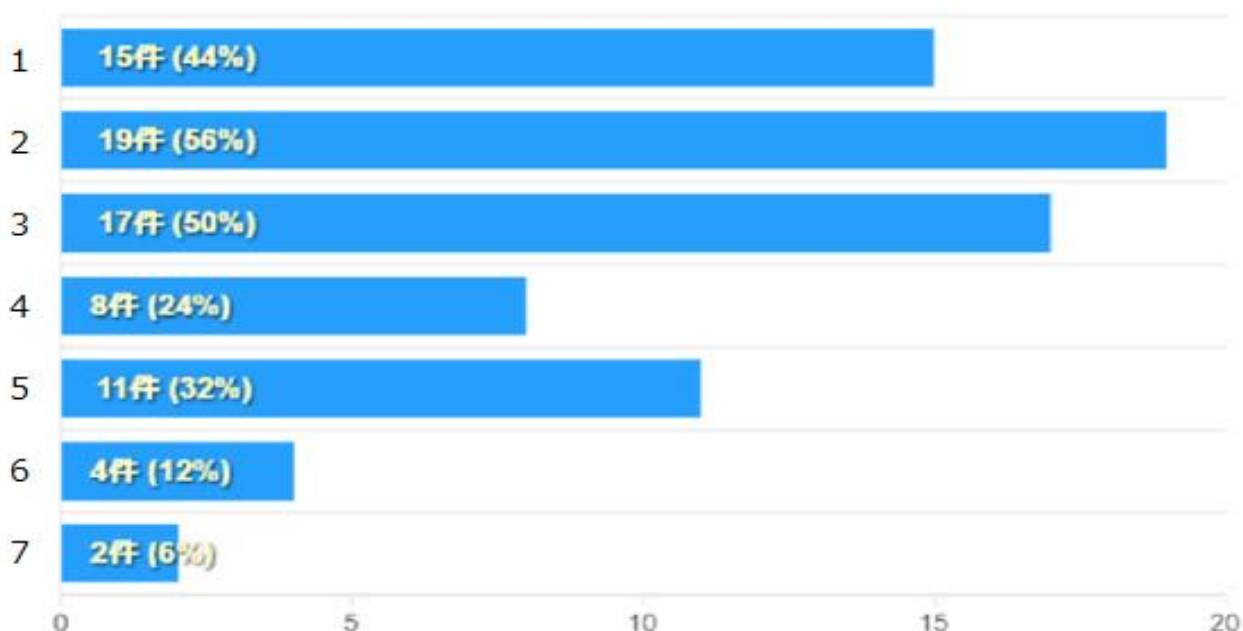
Q16 ペットを避難所に連れていく際に一番不安に感じることをおしえてください。



Q17 中野区の避難所に特に求めること



Q18 災害時を想定し、日頃行っているペット対策（複数回答可）



- 1 日頃からケージやクレートに慣れさせている
- 2 「待て」や「おすわり」など基本的なしつけを行っている
- 3 ペット用の防災グッズ（トイレ用品、ペットフード、ケージ）を備蓄している
- 4 日頃から他人や他人のペットに慣れさせている
- 5 在宅避難ができるよう家具固定や日用品の備蓄を行っている
- 6 緊急時ペットを預けられる場所（親戚宅、専門施設等）がある
- 7 その他

参加者及び医師会・獣医師会からの意見

1 参加者からの意見

- (1) 避難所に集合する前の初期消火訓練・要配慮者避難訓練は重要である。
- (2) 本来の避難所ではない場所での開催だったため、不安が残る。
- (3) 他にも防災関係機関を新しく呼んでもいいのではないか。
- (4) 式典のイメージが拭えていない感じがした。
- (5) 要配慮者同行避難訓練がスムーズにいかず、区と防災会で認識の違いがあったように思う。

2 医師会からの意見(エアーテント活用に対する意見)

- (1) 重症者を医療機関へ搬送するための待機スペースとして有効である。
- (2) 災害時の医療活動に有効である。
- (3) 天井側気柱のベルクロにひもを通し、点滴を吊り下げることができたが、フックがあるとよい。
- (4) 付属の内幕で3室に分割できるため、プライバシー保護にもよいと感じた。
- (5) 大小のテントを組み合わせることで、治療や待機などの状況に合わせた医療活動に使えると思う。
- (6) 夜間の救護活動用の照明器具が配備されるとよい。
- (7) 気温(寒暖)の影響を低減するための簡易冷暖房が配備されるとよい。

3 獣医師会からの意見

- (1) ペット同行・同伴避難の定義の区別について、正しい認識が必要。
- (2) 飼い主側の意識啓発が引き続き必要。避難所でのペットの管理は自分がするという意識がないと、避難所運営側の注意や指導を聞かない恐れがある。
- (3) 猫については犬と違いしつけが難しいため、猫の性質の理解が必要。
- (4) エアーテントは熱中症などの気温が心配。今後様々なケースを想定し、テント内の環境変化等を検証していくべき。
- (5) テントスペースを有効活用するためには、組立式棚があると収容頭数を増やすことが可能となる。
- (6) エアーテントへの収容は、犬より猫の方が向いていると思われる。
- (7) 大型犬用のケージを収納した場合、小型のテントでは狭く感じる。
- (8) 訓練当初は、出入り口を開けていたが、出入り口を閉じたほうがペットは落ち着いていた。

訓練当日の様子(桃園・江古田)

① 初期対応訓練



スタンドパイプ放水訓練(桃園)



要配慮者同行避難訓練(桃園)

② 公助連携訓練



施設点検・応急危険度判定(桃園)



道路啓開訓練(桃園)



応急給水訓練(桃園)

③ 医療救護所開設・運営訓練



医療救護訓練(江古田)



医療救護訓練(江古田)
(エアーテントの検証)

④ ペットの同行・同伴避難、獣医師会による講話



ペット同行・同伴避難訓練(江古田)



獣医師会による講話(江古田)



ペット同行・同伴避難訓練(江古田)
(エアーテントの検証)

⑤ 参加者体験訓練・普及啓発ブース



視覚障害者誘導・車イス体験



起震車体験



AED 体験(防災青年リーダー指導)



消火器体験(外国人防災リーダー指導)



救出・救助体験



AR 消火体験



普及啓発コーナー